

Course number		U-LAS04 20001 LJ45					
Course title (and course title in English)	偏見・差別・人権 Prejudice, Discrimination, and Human Rights			Instructor's name, job title, and department of affiliation		Institute for Liberal Arts and Sciences Program-Specific Professor,SATOU TOORU	
						Part-time Lecturer,TOYOFUKU SEIJI Graduate School of Medicine Associate Professor,KATOU TOSHIHIRO	
						Part-time Lecturer,IOKA YASUTOKI School of Government Professor,SAITOU MAKI Graduate School of Education Professor,KOMAGOME TAKESHI	
Group	Humanities and Social Sciences			Field(Classification)		Pedagogy, Psychology and Sociology(Issues)	
Language of instruction	Japanese			Old group	Group A	Number of credits	2
Number of weekly time blocks	1	Class style	Lecture (Face-to-face course)		Year/semesters	2024・First semester	
Days and periods	Mon.5		Target year	All students		Eligible students	For all majors
[Overview and purpose of the course]							
人間社会における偏見と差別に関わる諸問題を人権の観点から学問的に解明し、教授することは、大学として果たすべき重要な基本課題であるとの認識に立ち、本学学生に人権問題に関する概論を教授するため、全学共通科目「偏見・差別・人権」を開講する。							
[Course objectives]							
講義を通じて社会における偏見と差別についての認識を深めると同時に、人権問題を自ら考える機会とする。							
[Course schedule and contents)]							
以下の5つのテーマを取り上げ、それぞれのテーマに関する講義を行う。							
豊福誠二 現代社会における人権の問題(4/8, 15) 本講座では、まず、弁護士である講師が「人権とは何であるか」について概説をする。その上で、近時みられる「ヘイト・スピーチ」の現状を紹介し、なぜこのような現象が発生するのか、どのような被害があるのか、法的規制はどうあるべきかについて考える。							
加藤寿宏 障害(disability)に関する問題(4/22, 5/7, 13) 地域の学校に在籍する児童・生徒のうち発達障害（自閉症スペクトラム障害、限局性学習障害、注意欠如・多動性障害）の可能性のある者は、6.5%といわれている。しかし、発達障害と定型発達との境界は明確ではなく、スペクトラム（連続帯）であることから、診断がつかない者も含めると、その割合はかなり多く、発達障害はもっとも身近な障害であると言える。また、発達障害者の中には、優れた能力がある者も多く、大学や職場で出会う機会も多い。しかし、発達障害は目に見えない障害であるため、偏見・差別が生まれやすい。本講義では視聴覚教材等も活用し発達障害についての理解を深める。							
井岡康時 被差別部落に関する問題(5/20, 27, 6/3) 自由・平等の理念や合理主義などを基調とする近現代の社会が、なぜ古い時代に淵源をもつと考え							
----- Continue to 偏見・差別・人権(2) -----							

偏見・差別・人権(2)

られる差別を克服できないのか。その回答を得るために、時代をさかのぼり、視野を世界に広げてさまざまな資料を読み解いていく。こうした作業を通じて、可能な限り差別意識の深奥にせまるとともに、課題解決に向けた理論構築を試みてみたい。

齊藤真紀 ジェンダーに関する問題(6/10, 17, 24)

3回の授業を通じて、現代の我が国において、企業におけるキャリア形成の各ステージにおいて、ジェンダーの問題がどのように立ち現れるかを解説し、その中のいくつかを重点的に取り上げ、解決のためにいかなる社会的メカニズム（アフーマティブ・アクション、市場における競争など）によることが考えられるかを検討する。

駒込武 外国人に関する問題(7/1, 8, 22)

日本軍「慰安婦」問題と、今日の日本社会におけるこの問題についての報道について、外国人への民族差別および性差別という観点から考察する。

コーディネーター：佐藤 亨 国際高等教育院特定教授

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

毎回の小レポートと定期試験で成績評価を行う（小レポート40点、定期試験60点）。
なお、8回以上の出席を定期試験の受験資格とする

[Textbooks]

Not used

[Study outside of class (preparation and review)]

講義内容の復習を行うこと

[Other information (office hours, etc.)]